



COOL OPENING .LAB

ニュースレター NEWS

クールオープニング .ラボ NEWS LETTER サンプル

2015年 ● 月

ニュースレターの目的

ニュースレターは、お客様との関係を築くためのコミュニケーションツールです。セールスレターやチラシとは、その目的が異なります。ニュースレターに掲載する情報が、セールスばかりにならないよう注意しましょう。しかし、商品やサービスに関する記事がまったくないことも、お客様からすると不信に思われます。お役立ち情報やアドバイスというかたちをとり、あなたの商品やサービスに結びつけることも大切です。

ニュースレターを作成する際のヒント

ニュースレターを作成するときは、毎回次のことを確認します。

Q: 読者は誰か?

A: 既存のお客様

Q: 記事の内容で気を付けるべきことは何か?

A: セールス情報ばかりにならないようにする ※お客様は売り込みに警戒している

トップコンテンツは「人」に関する話題

トップコンテンツは、最初に読まれる部分です。トップコンテンツは、ニュースレター全体の精読率にかかわるとても大切です。このトップコンテンツは、あなたやスタッフなど人に関する話題を取り上げると良いでしょう。

「お客様の声の引用は、会社の成功事例を示し、会社の価値を強調するのにとても効果的な方法です。

ニュースレターに視覚的な趣向も加わります」

- 岩崎 慎太郎



写真キャプション

特集

(目次に利用)

- ニュースレターの目的
- 2つ目の記事
- その他の記事
- サイドバーの記事
- その他の記事



写真キャプション

その他の記事の見出し

普段から写真を撮ることをお勧めします。どんなことを書けばよいか、迷ったとき、写真があれば、その時のことを思い出しやすくなり、記事をかきやすくなります。

段落を多用します。多くの情報を入れたくなりがちですが、詰め込み過ぎると、読者にとっては読みしにくく、興味のある箇所をкаいつまんで読むことが困難です。

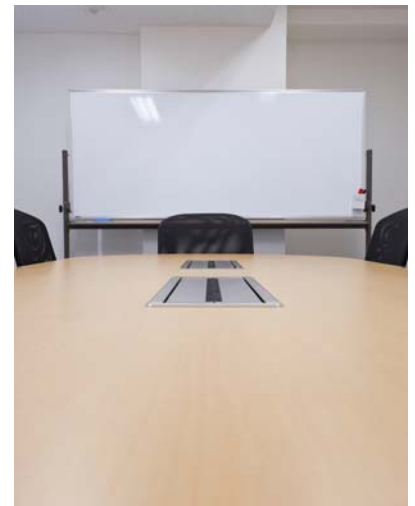
2つ目の記事の見出し

あなたの扱っている商品やサービスについても記事にすることはできます。しかし、直接的なセールス情報になってしまうと、ニュースレター = 読み物であるという、ニュースレターの特徴を失わせてしまいます。

お客様にとって、役に立つ情報であったり、専門家であるあなたからお客様へのアドバイスという形式をとり、商品やサービスに言及することが良いでしょう。

定期的にコミュニケーションをとっていくと、役に立つ情報やアドバイスが、お客様の頭のなかから忘れにくい存在になります。忘れにくい存在となることで、お客様が購入するタイミングになったときに、あなたはお客様の選択肢のなかに入ります。

当然のことですが、選択肢のなかに入らない限り、お客様があなたから購入することはありません。



写真キャプション

記事で読者に語りかける

ニュースレターはコミュニケーションツールです。話言葉で記事を書くことも親近感がよりアップする手法のひとつです。ただし、馴れ馴れしい印象を与えないようにする注意もあわせて必要です。

一文は短めに。

一文を短めにしましょう。無駄に長い文章は、読みにくく、伝わらない文章になってしまうことがあります。また、段落を細かく設けることで、読みやすい記事になります。

サイバー記事の見出し

写真を掲載し、その写真についての説明をします。

たとえば、お店でイベントなどを開催し、その紹介をしましょう。

お客様は、あなたのお店や会社が行っていることについて、すべてを知っているわけではありません。

いろいろな取り組みを紹介していくと、同じお客様からそれまでとは異なる、ほかの仕事を受注することにもつながります。

お問い合わせ先

当社の商品およびサービスの詳細についてお気軽にお問い合わせください。

社名

〒郵便番号 住所①

住所②

TEL・FAX

メールアドレス

Web サイトをご覧ください:

URL



写真キャプション

その他の記事の見出し

見出しは、ニュースレターにとって重要な要素です。

電車の中の中張り広告などを参考にすると良いでしょう。

興味をそそるような見出しを作ることができれば、読者を引き込むことに成功です。

しかし、最初からインパクトのある見出しを書くことは、とても難しいものです。ニュースレターを定期的に、そして継続して発行していくなかで、少しずつコツをつかんでいってください。

ニュースレターをつくる時、完璧なものを目指さないように注意してください。あまりにも完璧なものと考えてしまうと、第一号すら完成させることができなくなってしまいます。お客様である読者に伝いたいことが伝われば良いのです。

また、正しい日本語を意識しすぎること、制作が滞る原因になります。むしろ、少しくだけた感じの文章のほうが良いので、気楽に始めましょう。